

なめがた大使 小林光恵さん 書きおろしエッセイ 五感でキャッチ！なめがた漫遊記 第18回

この20年、どんなでした？

年月が早く過ぎる感覚になったことを、周囲の高齢者たちが若い私に言ったものだ。

「一年なんて、横断歩道を一回渡るくらい感覚で過ぎるから」「私はもつと速くて、矢のように過ぎて行く」「私は瞬きして（瞬き）いるうちに過ぎちゃう感じ」

へいくらなんでも、たとえがオーバー過ぎやしませんか？Vなんて思っていたけれど…。還暦を経たいま、彼らはただただ素直に実感を語っていただけかもしれない、と思うようになった。とにかく、あつという間に日々が過ぎて行く。

振り返った後にふたたび前に向き直ると、明らかに前の見え方が変わる、あるいは見えなかったものも見えてきたりもするから大切にしたい。今日は、この20年をじっくり振り返る良い機会だけれど、今の私の場合、難しいかもなあ。例えば20年前のテレビドラマやヒット曲だって、最近のものという感覚なんだから。

そんなことを考えながら、9月28日の10時前に、行方市市制施行20周年記念式典の会場（行方市文化会館）の席に着いた。

間もなく「認定こども園のぞみ」の子どもたちによる歓迎演奏・演技が始

まった。4歳〜5歳の子どもたちが、どうしてこんなにも上手にできるの？

と不思議になるほど難しそうな動きや演奏をすてきに披露してくれて、感動で胸いっぱいになった。そして、ここまでになるには、この小さな子どもたちの身に、いろんなことがあっただろうなと想像。あんなこと、こんなこと。先生たちや親御さんたちにも。

子どもたちの熱演が続くなか、来賓席に座るスーツ姿の男性の横顔がちらり見えた。やはり舞台上に感じ入っているのか、ぬれた瞳がきらり光った。そんな彼の身にも、この20年、いろんなことがあったことだろう。

年月が早く過ぎる感覚のことなんてどうでもよくなってきた、この日の夜、20年分のスケジュール帳を見返して、悲喜こもごものさまざま出来事を振り返った。

小林 光恵さん

長らく「ほぼ日手帳」(日曜はじまり)を愛用しています。毎年秋を感じると、来年用を購入するのですが、今年は涼しくなるのが遅かったため、注文が遅くなってしまいました。



行方市出身。つくば市二の宮在住。記念式典で子どもたちの舞台を見て、子どもさんの演劇や運動会をはりきって録画する大人たちの気持ちが改めてわかった気がします。撮らずにはおれませんよね。

市公式ホームページ内で「行方帰省メシ」連載中。サイトはこちらから▶

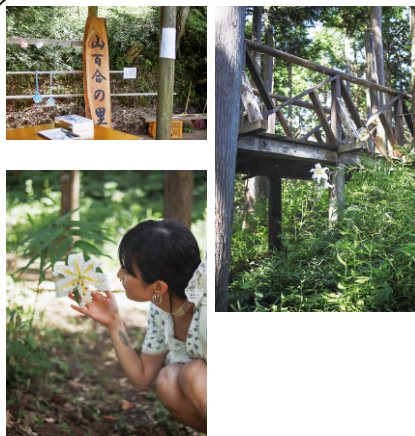


地域おこし協力隊

連載コラム⑱

ようやく暑さも落ち着き、秋を感じられるようになってきました。季節の変わり目、皆さんお元気で過ごすごしでしょうか？

私は、行方市のいわゆる「映えスポット」を探しているのですが、行方市には、神社仏閣はもちろん、公園もたくさんありますね。個人的には西蓮寺近くの「山百合の里」がよかったです。面積約2万㎡に約2万株の山百合が咲き誇る、関東随一の山百合自生地だそうです。今年は、7月6日(日)から7月20日(日)まで無料開放されており、私は7月19日(土)に行ってみました。見頃は過ぎていたようですが、数輪残っていました。里山散策、緑がたくさんでも癒されました。



▲堅田 麻理奈 隊員

【令和7年4月1日～現職】
新たな特産品としてブドウの栽培、ワインの製造、行方食材とのペアリング等を研究し、行方市産ワインのアンバサダーとして「まちづくり×ワイン」の新たな取り組みに挑戦しています。



そして、9月後半には「葡萄色エッセイ」で、収穫作業ボランティアを開催しました。私が通っていたワインスクールの先生と生徒の皆さんをお招きし、収穫をしていただきました。つ、行方市を知ってもらおう！というツアーにしてみました。収穫作業の後は「白帆の湯」に行き、夕食は「華のれん」で、シラウオやサツマイモ、美明豚など、行方市の食材を使った料理を出していただきました。「行方市の食材を使った料理は、とってもおいしかったです！」と言っていたら、大好評でした！

今後、冬に向かうにつれて冷えてくると思いますが、皆さん体調には気を付けて、元気で過ごしてください。

(次号は、佐藤晶が担当します)